

【特集:おらほの農地集積】

「地域・集落が一体化した営農スタイルの確立を目指して(地産地消の取組み)」

～ほ場整備事業完了とその後～

いしのもりせいぶ 石森西部地区



【図-1 石森西部位置図】

1 地区の概要

事業名：県営ほ場整備事業(担い手育成型)	担い手農家戸数：個別6戸，1組織，1法人
関係市町村：登米市(旧中田町・旧石越町)	担い手経営面積
関係土地改良区：北上川沿岸中田地区土地改良区	(実施前)：38.68ha
工期：H7～H16年	(H17実績見込み)：97.76ha
受益面積：122.2ha	農地集積率：53.9%(H17見込み)
総事業費：2,125百万円	農地集積増加率：146.8%()
農家戸数：200戸	

2 地区の状況

事業導入以前の地区内のほ場は、昭和18～22年に耕地整理事業で10a区画に整備しているが、用排水未分離のうえ農道幅員も2.0～3.0mと狭く、近代的な農業生産に多くの支障を来していた。

このため、平成7年から県営ほ場整備事業(担い手育成型)を導入し、労働生産性の向上のため大区画ほ場や、耕地の汎用化を図るための各種整備を行うとともに、土地利用の高度化、農業構造の改善のため、農地の利用集積についても促進し、生産性の高い水田農業の確立し平成16年度に事業を完了した。

当地区は、登米市の中田町と石越町の旧2町にまたがった南北に長い形状をしており、地区の北部では水稲と転作のブロックローテーションを取り入れた営農を、また、南部地域は生産組織・生産法人への委託を進め、小麦や大豆の生産に取り組んでいる。

特徴のある取り組みとしては、ほ場整備事業の着工とともに、地区の土地利用調整をおこなうためアグリセンター方式を導入し集積等を推進している。アグリセンターは、現在6集落で設立され役員が中心となって利用調整し集積を行っている。また、地区の担い手の中には、余剰労力を生かし園芸作物栽培や産直に取り組むなど多彩な農業の展開も図られている。

【担い手の育成状況】

<実施前>
担い手農家5戸(4認定農業者)

<実施後>
担い手農家6戸(6認定農業者)
1組織(3オペレータ)
1法人(3常時従事者)
※当初は、個別担い手のみの計画であったが、新たな営農形態を目指し、個別の他に組織と法人が生まれた。

【集積増加率】

利用集積面積率が実施前の7.4%から実施後は53.9%(H17見込み)となり、その結果、集積増加率は146.8%となる見込み。

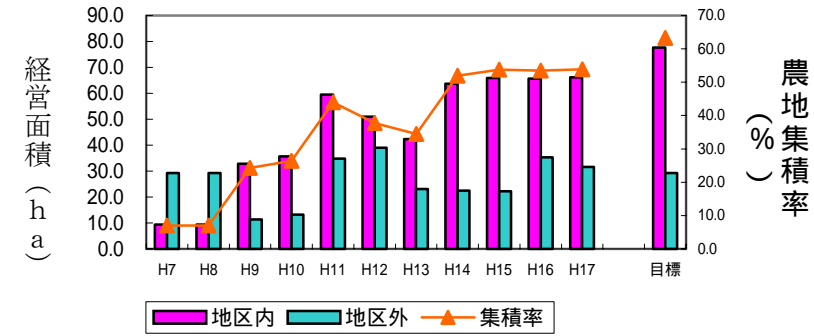


【図-2 大豆の転作状況】

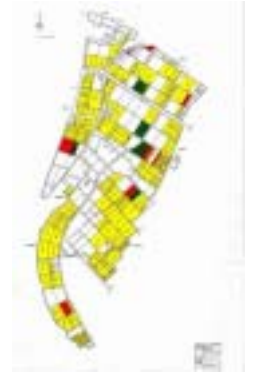


【図-3 大豆の刈取り】

3 担い手経営面積の推移(集積状況)



【図-4 経営面積と集積率の推移状況】



【図-5 農地集積状況図】

4 「地産地消」の取組み

中田町の地産地消の取組みは、昨年5月、中田町内の地元の方々が参加した「産直なかだ愛菜館」のオープンが契機です。地元で採れた白菜・大根等の野菜や、果物・花卉等が販売(売上約1億円)されています。現在では120人に及ぶ地元組合員が(石森西部地区の担い手3人と地権者3人加入)水稲作業の傍ら、余剰能力を活かし花卉や露地野菜の栽培に力を入れています。境堀アグリセンター会員の浅野明夫さん(図-7)も愛菜館に野菜等を出荷しています。*****【図-6 産直なかだ愛菜館】



「この地域は北上川から取水した清らかな水と、肥沃な土壌で、本当においしい米がとれます。農地集積を進める傍ら、葉物野菜や根菜類の栽培などに取り組んでいます。天候に左右される大変な仕事ですが、のんびりと農作業をしています。」



【図-7 浅野さんの白菜畑】

このような“地産地消”を目指した積極的な活動で、農業所得の向上や、地域に合った営農のスタイルの確立が図れ、さらに、地域農業が活性化するように努力しています。

5 農地集積目標達成に向けた活動状況

推進活動として、昨年度「2004農地集積フォーラム in なかだ ～ほ場整備を契機として豊かな地域農業を目指して!～」をスローガンとしてフォーラムを開催。

- ・ 東京大大学院の谷口教授から「米政策改革大綱と日本農業の行方」と題しての基調講演。
- ・ 南方町の「旬とねやしき農場」の永浦氏から実践事例の報告。
- ・ パネルディスカッション。



【図-8、9 農地集積フォーラム開催状況】

6 ほ場整備事業の完了,そして...

ほ場整備事業を契機として、アグリセンターが中心となり農地の集積は図られてきたものの、転作のための団地化が主であり、中には未だ自己完結志向の農家も多いというのが現状です。しかしながら、関係農家が主体的に土地利用調整をはじめ、担い手の育成や、連担団地計画の作成、集積計画の策定に携わるなど積極的な活動も行っており、今年度の集積率も53.9%と確実に目標達成まで近づいてきております。

今後は、ほ場整備事業の完了によりさらに地区とアグリセンターが一体となり、集落営農体系の確立を実現するべく、地域・集落が一体となって取り組んでいきたいと考えています。

《問い合わせ先》
水土里ネットなかだ(北上川沿岸中田地区土地改良区)
〒987-0601 宮城県登米市中田町石森字駒牽 238-1
TEL: 0220-34-2423 FAX: 0220-34-3396